

招聘教育講演
「地域健康社会学」から
みえてくること

立命館大学
衣笠総合研究機構
地域健康社会学研究センター
早川 岳人

November / 4 / 2017

公衆衛生とは、

- 健康に悪影響を及ぼす環境や行動、社会的要因を取り除き、健康障害を予防すること、さらには人々の健康状態とQOLを向上させることが公衆衛生の目標となる。
- 公衆衛生では、健康な人間を含めた集団を対象とする。行政など組織を通じた社会的活動として実践されること、傷病の治癒ではなく予防や社会的復帰を重視することなどが特徴となる。

2

疫学とは？

- どのような時代、地域において、どのような疾病や異常の流行があったのか、そしてそれはなぜなのか、何が原因なのかを人間集団に注目して明らかにし、その問題解決をはかる学問。

3

地域づくり、住民が主人公になることで、

- 自立、自主、自衛、共生
 - 「自分のからだは自分でまもる」
 - 「地域の健康は自分達でまもる」
- 介護問題を糸口にして、色々な地域の健康課題を自分達が考える
- 住み慣れた地域で暮らし続ける
- 自分が主体的に意思決定する

4

研究内容

- 地域社会の人々の健康にはどのような特徴があるのか、その社会背景の違いも予防因子として疫学等の手法を用いて健康課題を明らかにする
- 行政のみならず住民にも自分達の問題であると主体的な意識を感じてもらい、「自分の体は自分で守る」という意識のもと、地域住民が主人公になっていくための地域健康社会学、総合人間学を創り出す

5

地域健康社会学

- 衛生公衆衛生学(社会医学)、社会学(社会病理・社会問題研究)、心理学(臨床と応用心理分野)などさまざまな研究分野にまたがる領域から、総合的に地域、健康、人間、社会を探究していく
- 病気の原因は「社会病」である
- 住民疫学

6

ゆりかごから墓場まで

- 健康を単に病気という視点からではなく、社会生活を営む上で生じてくるいろいろな健康課題ととらえ、貧困や虐待、教育(学歴)、雇用などの社会格差、健康格差も視野に入れ、
- これらを可能な限り健康に過ごすためには、何が、またどのようなものが必要なのか。また各人や地域が心がける必要があるとすれば、どういったことか。人のライフサイクルを総合的にみつけて討論できればと考えています。

7